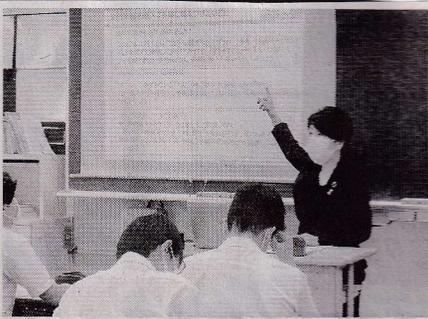


子どもに金融教育を

出前授業のニーズ高まり

小中高校生にお金の知識を身に付けてもらおうと、日本証券業協会（日証協）が学校での出前授業に力を入れている。2022年4月の成人年齢引き下げ以降、講師を務め



東京都大付属高で資産形成の授業をする「金融・証券インストラクター」の大嶋孝子さん。6月、東京都世田谷区

る「金融・証券インストラクター」数は約2倍に。専門知識を持つ教員は不足しており、ニーズはさらに高まっている。

「子ども1人を私立大学まで行かせる場合、約1300万円かかります」。インストラクターの大嶋孝子さん(56)がスライドで説明すると、高校2年の生徒たちは「えっ！」と驚いた様子で聞き入った。6月15日午後、東京都大付属高（東京都世田谷区）の家庭科の授業の一コマだ。

同校では1学期に計12回、投資や税金などを学んだ。この日のテーマは将来必要な金額を知り、毎月一定額をためる重要性についてだった。

成人年齢が18歳に引き下げ

られたのを受け、詐欺やトラブルに巻き込まれないよう、22年4月から高校の家庭科で教える金融経済教育が拡充。資産形成や運用などが組み込まれた。

日証協によると、金融知識の普及活動を担うインストラクターは登録制。外務員などの資格か講義経験があり、金融機関に属していないことが条件だ。インストラクター数は22年の111人から23年は213人と倍増。日証協による小中高校への講師派遣も20年度の62校から22年度は160校に増えた。

大嶋さんの授業を受けた2年塩崎潤さん(16)は「親の老後も気になるので、お金をためる重要性を感じた」。保谷征朋さん(16)は「投資にはリスクがあることも分かった。資産運用を理解できるようになり、しっかり勉強していきたい」と振り返った。